

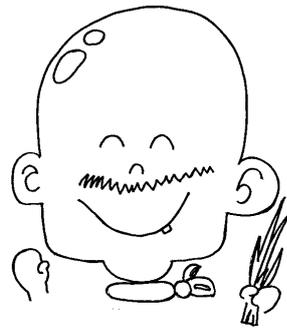
農大同窓会報

発行所
愛知県立農業大学校同窓会
岡崎市美合町字並松1-2
電話(0564)51-1601

編集発行人
同窓会長 柴田 隆夫
印刷所 (株) イヅミ
電話(0564)21-2657

コロナがキターツ!

会長 柴田 隆夫



同窓会会員の皆様、激動の世界情勢の中、いかがお過ごしでしょうか？

日頃は、同窓会活動に御理解、御協力いただき誠にありがとうございます。

コロナが直撃!

世界的なパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症。我が家は、キャベツ農家で幸い2年以上健康な生活を送って来られました。しかし、こんな我が家をコロナが襲いました。

この原稿の執筆時点で日本人の8割以上の人が感染未経験ですので、実体験をまとめるのは意味があると思いました。

実録 新型コロナウイルス感染

6月22日 地元小学校(6年生、続いて5年生が学級閉鎖。
7月3日 近くに住む外孫の小2女子が感染、発熱。
7月6日 その小2女子の父親が感染、4日間の発熱、鼻水、咳、倦怠感、味覚障害。
7月7日 地元小学校2年生が学級閉鎖、オンライン授業。小2女子の母親(私との関係は二女)が感染、症状は軽微。我が家の長男が感染、発熱(高熱)、鼻水、咳、倦怠感4日間。長男の嫁が感染、症状は軽微ながら、嗅覚障害の後遺症が2週間続く。
7月8日 私と妻、長男の子2人が感染。私は37.5度の発熱ながら強い倦怠感。

実生活への影響

トウモロコシ狩り、直販は中止。仕事も中止、講演会、バーベキュー大会、視察受入れ、旅行は全てキャンセル。10日間の外出自粛のため、買い物もでき

ず。近くに住む長女に依頼して玄関先に届けてもらうなど、多方面の方に迷惑をかける事になってしまいました。

PCR検査で陽性となると保健所から一人ひとりに電話が入り、状況確認、注意事項等の指導があり、メールで毎日の状況報告が求められます。

まとめ(考察)

人類初のmRNAワクチン。パンデミックの切り札として10年かかると思われていた開発期間を1/10の1年に短縮して登場。効果や安全性に不安のある中、ワクチン接種が始まりました。

我が家では、4回接種から無接種までの例がありました。ざっくり概観すると、接種回数が多い方が無症状(4回94歳母)であったり、軽微で済んだようです。無接種の場合、高熱や後遺症等が見られました。ワクチン接種には、一定の効果があつたように思います。入院が必要な程の重症化をリスクの線引きと考えると、無接種もアリとも言えます。

家庭内に一度ウイルスが入り込んでしまうと、感染を防ぐことはかなり困難です。平均3日程度の潜伏期間もあり、気づいた時にはかなり広がっていたというのが実態です。

我が家での感染騒動が収まった頃、母の弟93歳がコロナで亡くなったとの一報が入り、衝撃が走りました。肺の持病がありリスクの高い方でした。棺はフィルムで完全にラッピングされ、顔を拝むことはできません。



ごあいさつ 同窓会員の皆様

校長 鷹羽 靖夫

同窓会員の皆様方には、益々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃から、柴田隆夫会長を始め、同窓会の役員、理事、会員の皆様方には、本校の円滑な運営に格別の御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、私は、この4月に農業大学校長を拝命いたしました鷹羽と申します。教育部長、副校長を勤めた経験を生かし、職員、学生とのコミュニケーションを図りながら円滑な教育研修業務の運営にあたってまいりますので、同窓会員の皆様方には、歴代校長と同様、よろしくお願ひ申し上げます。

んでした。ワクチン接種は受けていましたが、万能ではないのですね。

ニュース等で見聞する以外、身近には感じられませんでした。が、今回の経験を通して新型コロナウイルスの恐ろしさを知る事になりました。

人類とウイルスの共存は今後も長く続いています。人類史初。世界的大実験から今後の感染症対策への教訓をどういのか?それが問われています。

令和3年度卒業生の進路

令和3年度卒業式は令和4年3月7日に執り行ない、農学科101名が本校を卒業しました。令和3年度の卒業生は、国内で新型コロナウイルス感染症が始まった年に入学し、入学式の中止や6月から始業など混乱の中でスタートしました。その後も多くの行事が中止、縮小され、彼らにとつては残念な学校生活だったかもしれません。そういった中で「他の学校に比べれば、農大は実習など学校で授業を受けられ、寮生活を通じて多くの仲間ができてよかった」という声を聴けたことが救いだったかもしれません。

このようないへんな2年間でしたが、立派に学校生活を送り、全員が新たな進路に進むことができました。就農(後継者就農と農業法人への雇用就農)33名、農協(団体への就職12名、農業資材等関連企業への就職31名、公務員就職4名、大学編入等進学7名などで、進路決定率は99%で過去3カ年で最も高くなりました。また、就農および将来就農を予定している卒業生は50名と卒業生全体の49.5%とほぼ平年並みとなりました。本県農業の担い手として、また、農業を支える人材として、卒業生の今後の活躍を大いに期待しています。同窓会の皆様は、これら卒業生に会う機会などございましたら、先輩として御指導、御支援を御願いたします。

近況報告

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小して、4月9日には新たに農学科1年生76名を迎え入れ入学式を行いました。

5月には3年ぶりに東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会が本県主催で行われました。コロナ禍により9府県のうち3県から参加辞退がありました。が、参加6府県の賛同も得て無事開催することができました。競技では野球、バレーボール、卓球団体が優勝するなど優秀な

成績を収めることができました。大会運営は、学生会を中心に本校学生全員が選手、スタッフとなりすばらしい大会となりました。そして、大会中、県を越えて学生同士が交流し親睦を深める姿を見ると、大会開催の意義は大きかったと思っております。

学生募集の取組

全国の農大の入学者が減少する中で、本校においてもここ2年入学者が減少してきています。しかし、志願者は引き続き定員を上回っており、同窓会をはじめ多くの関係者のご支援・ご協力のおかげと感謝しております。

これからも多くの意欲ある学生を確保するため、昨年度より特別推薦入試制度(農業系高等学校後継者等特別推薦入試)を改正しました。改正内容は、従来の優秀な農業後継者の推薦(特別推薦I)に、新たに非農家出身でも就農(雇用就農も含む)意欲が高く在学中に農業クラブやクラブ活動に精力的に取り組んだ者の推薦(特別推薦II)を加えました。この結果、令和3年度は特別推薦IIで農業系高校から5名の優秀な学生が入学しました。

また、昨年度からインスタグラムやツイッターといったSNSにより、学生自らが日頃の実習や学校生活など本校の魅力を

積極的に情報発信し本校のPRを行っております。

最後に

令和4年1月に令和3年度養豚・養鶏専攻の中村綾乃さんが「ヤンマー学生懸賞論文の部」で大賞を受賞しました。中村さんは令和2年度にも全国農業大学校等意見発表会で最優秀賞、「ヤンマー学生懸賞作文の部」で銅賞を受賞しています。中村さんは非農家出身ですが、農法人に就職し本県農業の担い手となつています。中村さんの表彰盾は、現在、本校玄関奥のケースに飾っております。在校生には時折、先輩の偉業を話すとともに、この後に続けと励ましています。その他多くの学生が様々なコンクールに出品し優秀な成績を収めたり、プロジェクト研究などで優秀な取り組みをしています。実習や講義に追われる中、学生は努力しそれぞれが目標に向かって成長を続けています。本校学生の無限の可能性を感じるとともに本県農業を支える優秀な人材の養成という本校の使命の重要性を改めて考える機会にもなりました。

今後同窓会の皆さまには農大の運営に、より一層のご理解とご支援をいただけるようお願いいたします。

会員の皆様のさらなるご活躍とご繁栄を心より祈念申し上げます。ごあいさついたします。

◆◆令和四年度理事会だより◆◆

令和4年度の理事会は、令和4年2月4日(金)に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が急激に拡大したため、書面による審議となりました。

第一号議案から第五号議案の内容について配付した説明資料により審議していただき、すべての議案について異議なく承認されました。

各議案と主な内容は以下のとおりです。

- 第一号議案
令和3年度事業報告
- ・同窓会報第37号の発行
- ・役員会・理事会の開催
- ・卒業生への記念品の贈呈
- 第二号議案
令和3年度会計決算報告
- 第三号議案
令和4年度事業計画
- ・同窓会報第38号の発行
- ・役員会・理事会の開催
- ・卒業記念品贈呈
- ・同窓会員の表彰
- ・農業大学校同窓会全国連盟総会等への参加
- ・支部活動並びに技術部会活動への支援
- 第四号議案
令和4年度会計予算

○第五号議案
理事の委嘱及び役員互選
・現在の役員が引き続き選出されました。

また、同窓会員の表彰として、令和3年度あいちアグリアワードを受賞された天野巨様(農大専第8回・平成5年3月卒業)に記念品を贈呈しました。

**次期理事会
開催のお知らせ**

同窓会規約により、令和5年度は次のとおり開催予定です。で、理事の皆様は出席をお願いいたします。

日時 令和5年2月3日(金)

午前10時30分から

場所 愛知県立農業大学校
中央教育棟研修室

東海近畿ブロック 同窓会長会議

令和4年度の東海近畿ブロック農業大学校同窓会会長会議は和歌山県での開催予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止となりました。

なお、令和5年度は滋賀県において開催される予定です。

農業大学校同窓会名簿 の購入御案内

平成26年11月に同窓生名簿を発行しました。御購入を希望される方は、同窓会事務局へお問い合わせください。

名簿頒価：1冊3,000円（消費税、送料込）
恐れ入りますが振込手数料はご負担下さい。

同窓会事務局 ☎ 0564-51-1602

令和四年度 役員名簿

会長	柴田 隆夫 (専八)
副会長	富永 康典 (専八)
牧野 文彦 (大研三)	野田 留美 (大研一〇)
山田 博嗣 (大専一)	鶴飼 里恵 (大専一五)
学校職員 (管理課長)	尾崎 芳弘 (専四)
書記	伊藤 真二 (大農二九)
事務局長	学校職員 (学務科長)
顧問	山田 守克 (大専一〇)
名誉顧問	岡本 貴幸 (大農二五)
	鷹羽 靖夫 (校長)
	長尾 周幸 (元校長)
	有澤 道雄 (校長)
	大井 昌次 (校長)
	内山 公男 (校長)
	鈴木 良憲 (校長)
	落合 秀彦 (校長)
	村井 智子 (校長)
	林 錡 (校長)
	伊藤 茂樹 (校長)
	犬飼 唯士 (校長)
	山田 敏之 (校長)
	鈴木 勝 (校長)
	藤井 潔 (校長)
	三浦 貞志 (校長)
	友松 啓二 (前校長)
	堤 公生 (前校長)
	鈴木 吉地 (前会長)

農学科の令和3年度卒業論文発表会を開催しました

農学科の卒業論文発表会を令和3年12月16日(木)に開催しました。

11月に開催した意見発表会同様、「3密状態の回避」のために、大講義室に2年生、教室棟第1、第2教室に1年生と3つの会場をインターネット回線で繋いでの開催となりました。

農学科では、2年生全員が1人1課題以上のプロジェクト活動に取り組んでいます。学生自らが農業を学ぶ中、また専攻実習に取り組む中で感じた疑問点や改善点を課題とし、様々な試験を行いながら得られたデータを科学的に検証し、卒業論文としてまとめます。卒業論文発表会はその成果を専攻毎に選抜された2年生9名(昨年度に引き



大講義室で発表を聞く2年生

続き養豚・養鶏専攻から2名)が10分間の発表を行うもので、自分の取り組んできたテーマを全学生の前で発表できる絶好の機会です。

発表会当日は、いずれの発表者も専攻の代表であるという自覚と責任を持って、素晴らしい発表を行いました。審査は、堤校長始め4名の審査員が「発表内容」、「発表方法及び態度」、「質疑に対する応答」の各審査項目に基づいて実施し、最優秀賞1名と優秀賞2名を選出しました。各賞の受賞者は以下のとおりです。

最優秀賞

加藤 大季 (作物専攻)
「水稲不耕起V溝直播栽培におけるリモートセンシングの活用」

優秀賞

鈴木 淳也 (切花専攻)



左から鈴木君、加藤君、堤校長、澤田さん

「ヒマワリのセルトレー栽培の検討」

優秀賞

澤田 実季 (酪農専攻)
「外部乳頭シール使用による乾乳期の乳房炎対策」

審査委員長である堤校長は講評の中で、「限られた期間や条件の中での取り組みに苦労したと思うが、どれもレベルの高く内容のある素晴らしい発表であった。」と本人や専攻の関係者を労いました。

最優秀賞の加藤君は「東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会」に本校代表としてリモートで参加し、みごと優秀賞(3席)に輝きました。さらに「全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会」にも参加し、優良賞を受賞しました。



東海・近畿ブロック大会にリモートで参加する加藤君

農業大学の近況

(人数は入学時点)

1 概況

令和4年度の教育部農学科の学生数は1,2年生あわせて155名で、そのうち女子は48名で31%となっています。

専攻別学生数は表1に示したとおりで、野菜の2専攻と果樹専攻の学生数が多い傾向が続いています。また、畜産2専攻(酪農専攻、養豚・養鶏専攻)は女子学生の割合が54%と高く、女子の人気の高い傾向となっています。

一方、企画研修部では、Uターンや他分野からの新規就職農、職者等再就職訓練を支援する長期間の就農支援研修を3つ開講しています。令和4年度は3研修で計63名が受講しています。

表1 令和3年度農学科の専攻別学生数 (単位:人)

専攻名	1年生	2年生	計
鉢物・緑花木	3 (1)	6 (2)	9 (3)
切花	8 (2)	5 (4)	13 (6)
作物	6 (1)	8 (0)	14 (1)
果樹	11 (0)	14 (4)	25 (4)
露地野菜	15 (7)	14 (3)	29 (10)
施設野菜	14 (3)	12 (0)	26 (3)
酪農	10 (6)	11 (5)	21 (11)
養豚・養鶏	9 (5)	9 (5)	18 (10)
計	76 (25)	79 (23)	155 (48)

()内は女子の人数で内数

表2 農学科の入学生数の推移

入学年度	入学者数	女子学生数		農家子弟数	
		人数	割合	人数	割合
H29	96	27	28%	34	35%
H30	95	25	26%	37	39%
H31	97	24	25%	32	33%
R2	104	28	27%	29	28%
R3	83	24	29%	27	33%
R4	76	25	33%	18	24%

表3 農学科卒業生の進路状況

卒業年度	H29	H30	R1	R2	R3
	就農	7	3	15	12
後継者	32	25	18	17	23
農業法人	4	10	13	10	13
一時就職後就農	43	38	46	39	46
就農計	43	45	37	34	44
就職	6	3	3	4	3
研修	4	1	1	4	7
進学	6	6	3	8	1
その他	102	93	90	89	101
計					

また、福祉事業所職員が施設の栽培ほ場を運営するのに必要な基礎知識及び技術を修得するとともに、農作業を行う作業者にわかりやすく伝える手法を身につけることを目的とした農福連携支援研修を開講し、16名が受講しています。

本校キャンパス内では、農学科の若い学生から社会人経験のある研修生まで、幅広い年齢層の人々が学んでいます。

2 農学科の入学状況

本校では、意欲の高い学生を確保するため、オープンキャンパスや緑の学園研修、農業改良普及の課を通じた県内各JA広報誌への学生募集の掲載などを実施しています。そうした取組の結果、本年度は、定数100名に対し98名の受験者があり、試験の結果、76名が入学しました。

うち、専業及び兼業農家子弟の学生は18名で入学者全体の24%、非農家出身者は76%となっています。また、女子学生は25名(33%)で、県内農業高校出身者は33名(43%)でした。(表2参照)

3 農学科卒業生の進路状況

本校では、1年生のうちから進路セミナー等を実施して、進路の方向付けや就職活動の支援を行っています。令和3年度農学科卒業生の進路状況は表3のとおりです。101名の卒業生のうち、親元や農業法人など就職した者は、就職、研修、進学後予定者を含めると49名で全体の49%にあたります。また、就職した卒業生の多くは、農業関連企業や団体に就職しました。なお、進学者は7名と多く、国立大学への編入試験は2名が合格しました。

本校では職業安定法に基づく「無料職業紹介事業」を実施して、多くの農業法人等から求人をしていただき、学生の就農等を支援しています。同窓生の皆様からの求人をお持ちしております。

農学科各グループの近況

【花きグループ】

ガラス温室や遮光ハウスなど約1600㎡の施設と300㎡の露地ほ場を利用して、鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木、花壇苗等200種類以上の品目を栽培しています。在籍者9名(2年生6名、1年生3名)のうち専業農家出身者は1名で、普通

科高校卒業生も多くいます。専攻実習では、1年生の6月に「鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木」の4つの部門に分かれ、学生の「新たな品目や技術にチャレンジしたい」などの意見や発想を積極的に取り入れることで、実習作業内容の充実を図っています。

本年度のプロジェクトテーマとして、「シンビジウムのLED照射による生育の違い」などに取り組んでいます。学生それぞれのアイディアを生かして、品質向上や低コスト化、省力化など農業経営の改善に繋がるよう取り組んでいます。



【切花専攻】

約1500㎡の温室と200㎡の露地ほ場でキク、バラ、ストック、ヒマワリを主体に、カーネーション、ケイトウ、ベニバナ、ガーベラなど、10種類以上の植物を栽培しています。

本年度の在籍者13名(2年生5名、1年生8名)のうち、専業農家の子弟は3名います。1年生は、8月までに全ての品目の基礎的な栽培管理を学び、9月中旬から10月下旬までの農家派遣実習で鍛えられ、より逞しくなっています。派遣実習後に、キク、バラ、洋花の3

部門に分かれて、2年生の秋までにプロジェクト学習に取り組めます。実習で毎朝収穫した切花は、週2回(月、金曜日)、市内の花き市場に出荷しています。また、毎週水曜日に実施する実習販売では、切花加工演習で習得した技術を生かして自分たちで作った多品目を組み合わせ、お客さんへの反応を楽しみながら、意欲的に取り組んでいます。



【野菜グループ】

露地野菜専攻には、1年生15名、2年生14名の計29名が在籍し、露地野菜と促成イチゴの技術習得に取り組んでいます。15haのほ場で、冬はキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、夏はスイートコーン、スイカ、ナスなど、県内の主要40品目の勉強をしています。また、イチゴの高設栽培において、令和2年度から環境測定装置の「アグログ」を設置・活用するとともに



イチゴの高設栽培において、令和2年度から環境測定装置の「アグログ」を設置・活用するとともに

に、暖房機の更新に合わせて、炭酸ガス発生機を導入し、昨年度からはミストによる湿度管理を始めると本格的な環境制御技術に挑戦しています。

近年の異常降雨に対応するため、プラソイラーによる深耕が行っています。また、作柄安定のため土壌診断に基づく施肥量の適正化と夏期の遊休期間を利用して緑肥を栽培しています。



(施設野菜専攻)

施設野菜専攻には、1年生14名、2年生12名の計26名が在籍し、40aの温室で、トマト、ナス、キュウリ、メロンを栽培しています。本専攻では、現場の実情に対応してコゴバック栽培や袋培地栽培などの県内で普及している有機培地養液システムを導入しました。

最近、ミニトマトを希望する農家子弟が増えたこともあり、令和2年度から温室に環境測定機器の「プロファインダー」を導入

入するとともに、炭酸ガス発生装置と高圧ミスト装置を設置し、本格的な環境制御に取り組んでいます。また、ICT温室が令和2年2月に完成しました。「プロファーム」を核とした統合環境制御システムを完備し、昨年8月から本格的な運用体制が整い、10a当たり年間収量35tを目指した学生のプロジェクト学習を行っています。最新の温室を前に学生の士気が高まっています。



【作物・果樹グループ】(作物専攻)

14名の学生(農家子弟は9名)で、1haの大区画水田をはじめ大小9区画、計3.3haの水田で、大型機械を利用して水稲、小麦、大豆の栽培に取り組んでいます。

1年生は水稲栽培に関する基本知識が身に付けられるよう実習を進め、2年生からプロジェクト学習に取り組む、卒論としてまとめていきます。そのため、2年生になると各学生には場を割り当て、担当学生が責任を持ってほ場の作業や栽培管理、生育調査等を行う体制としています。

レンゲすき込みによる無化学肥料栽培や酒米、飼料用稲の栽培法の検討、さらには環境に配慮した低投入持続型栽培の検討

などをテーマとして取り組み、高生産性及び付加価値の高い技術に取り組んでいます。

また、近年は農機メーカーの協力も得て営農支援システムの活用などスマート農業の学習にも力を入れています。



(果樹専攻)

本年度は、1年生11名と2年生14名の計25名の学生で、22haの露地ほ場においてブドウ、ナシ、モモ、カキなど県内主要品目を栽培しています。また、イチジク、ミカン、ブドウのハウス栽培も行われており、県内の果樹営農類型の多くを学生は学ぶことができます。

多様な樹種と栽培方式のため、開花期から収穫前の7月までは摘果や袋掛け、ホルモン処理など管理作業のため学生たちは多忙な毎日をおすごしします。7月に入ると順次収穫が始まりますが、いずれの果実も実習販売では人気商品で、買い求めるお客様の列が絶えません。



学生は、入学当初は数多くの樹種の基本的な技術を学びますが、プロジェクト学習ではテーマを決めてより専門的な知識・技術を習得します。本年度のテーマとして、「ブドウの着粒数の違いが着色や品質に及ぼす影響」、「ナシの葉果比の違いが果実品質に及ぼす影響」などに取り組んでいます。

(畜産グループ) (酪農専攻)

乳用牛約25頭、肉用牛約25頭、育成牛約20頭の計70頭前後の牛を1年生10名と2年生11名の学生が飼養管理しています。また、約45haの圃場でトウモロコシや牧草など自給飼料生産も行っています。

学生の多くは非農家出身で、本校に入学して初めて牛に触れることもあり、1年生も、2年生や専攻の先生の助言を受けながら飼養管理技術を身につけていき、夏休み前にはしっかりと管理できるようになっていきます。

生き物の世話、特に搾乳作業は、年間を通して休みなく毎日の当番制で回していくため、実習時間数は全専攻の中でも突出しています。その中でも学生たちは、自分たちが



名付けた牛たちを名前前で呼びかけながら愛情いっぱい飼養し、どの農場よりも人懐っこい牛群が形成されています。

昨年度の換気扇の増設に加え、今年は牛床ベッドの拡大など、牛がより過ごしやすい環境を整えることができました。今後もアニマルウェルフェアを意識した飼養管理を実践し、教育への波及効果を期待しています。

(養豚・養鶏専攻)

養豚コースでは1年生4名、2年生4名の計8名が在籍し、交配から分娩、育成、肥育、出荷に至るまでの一貫した飼養管理の知識と技術を学んでいます。毎年、派遣実習を終えた1年生の各学生は、担当する母豚を決め、繁殖成績、肥育成績などを競い合うことで、責任感を持って飼養管理ができるような体制を取っています。

養鶏コースでは1年生5名、2年生5名の計9名が在籍し、ウインドウレス鶏舎、開放鶏舎で、白玉・赤玉鶏、卵用名古屋コーチン、岡崎おうはん等を合計約2500羽飼育し、採卵鶏の飼養管理技術について学んでいます。新たに入ってきた1年生は、5月にはひなが1200羽入すうし、ひなの飼養管理技術について学ぶことができました。また、毎週水曜日に行われる実習販売で、学生がお客様に直接、鶏卵を販売することにより、接客や直販での売り方を学んでいます。

農大祭

農大祭2021を開催

令和3年12月4日(土) 午前9時から正午まで、「ド派手にいこうぜ!!農大祭」をすべての命に感謝をこめて」をテーマに「農大祭2021」を開催しました。

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため食品バザー等飲食を伴う催事は実施できませんでしたが、農産物の販売を中心に開催することができました。

開場時間とともに、多くの来場者が見えになり、約1400名の方にご来場いただきました。

今年も体育館は鉢物・緑花木専攻のシクラメンやシンビジウム



会場風景

等で埋め尽くされ、テントブースでは、切花専攻の洋花セット、露地野菜専攻のハクサイ、キャベツ、焼き芋、果樹専攻のジャム類、作物専攻の米や餅、養豚養鶏専攻の卵、プリン、手作りのわら細工などを買求めるお客さんがたくさん並んでいました。



鉢物・緑花木専攻販売



酪農専攻の銀杏販売

また、各専攻の農畜産物のお得セットも初めて販売しました。後援会のブースでは、学生の保護者が収穫した野菜や果物などを、隣のブースでは岡崎市など協賛団体等が農産物や加工品、お菓子などを販売し大好評でした。中央教育棟では、茶道部の



軽音楽部のライブ



露地野菜専攻販売

茶道具展示や各専攻の紹介パネル、成果などを展示しました。また、2回行われたキャンパスツアーは66名の参加があり盛況でした。そして1時から教室棟南で軽音楽部がライブ演奏し、学生も集まって盛り上がりました。新型コロナウイルス感染症の影響で、さまざまな行事が中止される中、学生たちも元気になる場ができ、盛り上がる事ができました。ご来場いただいた皆さま、ご協力いただいた関係者の皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。



農大祭を先頭に立って準備した学生会メンバー

農大祭2022について

今年も12月3日(土)に「やりたいことを全力で」笑顔満点農大祭」をテーマに農大祭を開催します。

農産物の販売等の取り組みを通して、愛知県の農業の魅力と大切さを伝えていくとともに、県民の

皆様に農業大学校を身近に感じてもらえるように学生が中心となって準備を進めています。

また今年の農大祭は、新型コロナウイルス感染症の今後の状況を見ながらになります。3年ぶりに各種バザーの開催も計画しています!

同窓生の皆様も、ぜひお越しいただきますようお願いいたします。農大祭の開催準備状況は農業大学校SNSでご案内していきます。

農大祭2022への協力について
農大祭実行委員会では、同窓会会員の皆様から協力金を募っております。

ぜひとも皆様のご協力をお願いします。

●協力金の金額
1口 1,000円
(二口以上でお願いします。)

●振込先
金融機関 あいち三河農業協同組合 美合支店
農大祭実行委員会 会長 鷹羽 靖夫

●口座番号
普通 0036083

●払込期限
令和4年11月10日(木)

※振込でご協力をいただく場合は、各金融機関の振込用紙を御利用いただきとともに、御氏名の前に「同窓会 ドウソウカイ」とご記入ください。

なお、振込手数料についても御負担くださるようお願いいたします。

オーブンキャンパス2022を開催

令和4年6月4日(土)、18日(土)、7月26日(火)、8月2日(火)、23日(火)に、農業大学校への入学に関心のある方及びその家族を対象に「オーブンキャンパス2022」を開催しました。

各回とも定員60名で事前予約制として開催し、5回の開催に延べ166名の方が参加されました。

参加者は、大講義室で農大の特色、入試に関する情報、就職先などの説明を受けた後、キャンパスツアーで広大な敷地にある施設を見学しました。その際、学生も同行してほ場の説明や、参加者に積極的にコミュニケーションを取っていました。

農大生が作ったミニトマトや巨峰を試食した後に在校生との交流を行い、参加者から出された専攻実習、寮生活、クラブ活動、農家派遣実習等の質問に学生は積極的に説明していました。

また、7・8月に開催した3つの回では、希望者を対象に寮の食事を食べてもらい、農大生の生活も少しですが体験してもらうことができました。

参加者からは、「学生からたくさん話しかけてもらい楽しかった」、「学生生活の充実感が伝わった」などの感想が寄せられました。

より多くの方に農大に入学してもらえるよう、今後もオーブンキャンパスをはじめとするいろいろな機会を通して農大の魅力を発信していきます。



キャンパスツアー



在校生との交流

東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会 愛知大会

新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会が、令和4年5月26・27日に岡崎中央総合公園で開催されました。愛知での開催は9年ぶりとなります。

例年は東海近畿の9府県の参加で開催される大会ですが、コロナ禍のため、愛知県、岐阜県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、6府県の参加となりました。

開会式で、武山学生会会長、鷹羽校長の歓迎の挨拶、選手宣誓の後、6つの各競技会場に分かれて2日間にわたる競技が行われました。

愛知県は、野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントンに出場しました。出場した学生は日頃の練習の成果を



バレー部

遺憾なく発揮し、多くの種目で好成績を残すことができました。そして、スタッフとして参加した学生も主催県として、「おもてなしの心」を持って、大会の円滑な運営を力強く支えました。

学生たちには久方ぶりの他府県農大生との直接の交流の機会となり、会場各所で交流の輪が広がっていました。次回令和5年度のスポーツ大会は、兵庫県で開催されます。



出場選手



学生スタッフ



野球部

企画研修部の各種研修紹介

企画研修部では、新規就農希望者向けの研修や、農業者が社会情勢の変化と進歩する農業技術に対応するための研修、一般県民が愛知県の農業を理解するための研修を実施しています。

令和4年度に実施する研修の定員総数は約2400名ですが、新型コロナウイルスに対する行動制限を鑑みながら研修によっては定員を増やしたり、リモートの併用を図ったりしています。

1 農業者生涯教育研修

農業を担うべき者を対象に、農業者の発展段階に合わせた研修を行っています。

○担い手の確保を目的とした長期研修

農業所得250万円以上を目標とするUターン就農者や農外からの新規参入者を対象とした「ニューファーマーズ研修」、非農家等これまで農業以外の仕事に就いてこられた方が新しく農業



農業者育成支援研修



生産高度化研修

を始めるための「農業者育成支援研修」、離職者の公共職業訓練に位置づけられ岡崎高等技術専門校の「愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業技術研修科」として実施している「農業技術研修」があります。

○農業者を対象とした経営発展段階に応じた研修

農業者が必要とする知識や新技術等をタイムリーに習得する「経営管理研修」、「生産高度化研修」、「農産物活用研修（6次産業化）」を実施しています。

また、経営を発展させたい農業者が営農しながら体系的に経営を学べる場として「愛知農業次世代リーダー塾」や、経営改善効果が期待できる「GAP研修」、女性農業者の活躍を促進するための「女性農業者支援研修」を開講し、本県農業を牽引する優れた経営感覚を備えた農業者の育成を図っています。



農業機械研修(フォークリフト)



GAP研修(現地)

このうち、GAP研修については2回開催し、このうち1回は実際にGAPを導入した農業者の作業場等における現地研修を開催しており、好評を得ています。

2 農業機械研修

農業機械研修は、農業を担うべき者を対象に、農業機械に関する知識・技術習得を目的とした研修を実施しています。

免許が取得できる「大特免許研修」、「けん引免許研修」の他、「小型車両系建設機械研修」、「フォークリフト研修」、「刈払機

研修」等を実施しています。農業機械に関する研修は、免許や資格取得に直結するためどの研修も人気が高く、申し込みが定員を大幅に超える研修もあります。農業機械は正しく取り扱わないと事故に繋がる危険が高まるため、運転技能の向上と合わせて農作業安全に重点を置いていきます。

3 農業理解研修

県民が、愛知県の農業や食料に関する正しい知識を得て、農業・農村への理解と関心を深めるための研修です。

「県民公開講座」は、広く一般の方を対象に、家庭で栽培するカキやウメ等の身近な果樹の剪定方法を学んでもらう研修を実施します。

「農業ふれあい研修」は、小学校教諭を対象に、野菜づくりの

基礎知識を習得して授業に役立ててもらおう研修や、園児や小学生等が農業に親しみ、理解を深めてもらうため農大の生産施設見学会を実施しています。

また、農福連携を推進するため、福祉事業所職員を対象とした農産物の栽培技術習得を目的に「農福連携支援研修」を令和2年度から実施しています。



農業ふれあい研修

令和4年度に企画研修部が実施する各種研修一覧

研修名		回数	定員
農業者生涯教育	ニューファーマーズ	—	20
	農業者育成支援	—	15
	農業技術	—	30
	経営管理	4	160
	生産高度化	10	880
	農産物活用	1	20
	GAP	2	50
	女性農業者支援	5	300
	愛知農業次世代リーダー塾	—	20
農業機械	大特免許	9	164
	けん引免許	2	24
	トラクター作業	1	12
	フォークリフト	2	56
	小型車両系建設機械	2	52
	刈払機	1	24
農業理解	県民公開講座	1	50
	農業ふれあい	—	485
	農福連携支援	—	15
合計		—	2,377

第32回ヤンマー学生懸賞論文の部で大賞受賞

本校では、「ヤンマー学生懸賞論文・作文」の作文の部に、毎年1年生が、積極的に応募しており、折々で優秀な成績を残しています。昨年度は、論文の部に初めて、養豚専攻2年生の中村綾乃さんが応募しました。

中村さんは、昨年度、「作文の部」で銅賞を受賞しており、今回は、「外国産に負けない国産豚肉を目指して」お腹だけではなく心まで満たせる養豚のために」と題して、和食やエコフィードをキーワードにした独自の視点での内容で論述しています。

「論文の部」は、「作文の部」が農業大学校・農業短期大学生のみを対象としているのに対して、大学・大学院なども対象



オンライン発表会の様子

にしており、応募点数も「作文の部」478点に比べ40点と少ないなど、応募すること自体が難しい部門です。

令和4年1月21日(金)、第32回ヤンマー学生懸賞・作文入選発表会がオンラインで行われ、「論文の部」で入選した13点のうち、4年制大学が11点を占め、上位入賞は困難と考えられました。結果として、中村さんが頂点となる「大賞」を受賞しました。

審査委員長から「国際化の中の国産豚肉の意義や、箸という食文化、消費者の嗜好、エコフィードという環境面などさまざまな視点で養豚を捉えたことが、まさに今回のテーマである「食農産業」に結びついている



中根局長へのあいさつ

たことが評価された」と講評があり、本人も、「夢のようです。周りの方に助けをいただいたおかげです。ありがとうございます。」「と喜びのコメントを述べました。」

また、3月14日には、県庁を訪問し受賞報告をしました。

当日は、中村さんから受賞した盾を披露するとともに、論文を作成するに至った動機、国内養豚業に対する真摯な想いを説明しました。中根局長からは、「国産豚肉の良さを改めて認識できました。4月から養豚関係の仕事に就かれるとのこと、是非がんばってください。」と励ましの言葉をいただきました。

農大発SNS

愛知県立
農業大学校
公式HP



Instagram



Twitter



岡崎市と連携協定締結

本校では、教育方針の一つとして、地域に開かれた学校づくりとともに学生の社会活動への参画を進めています。

その一環として、2021年10月28日(木)に、相互の持つ資源や人材を活用して地域農業を盛り上げることを目的に、地元岡崎市と連携協定を締結しました。

締結式では、中根岡崎市長と堤校長が協定書に署名した後、学生会鈴木結子会長、倉橋沙奈副会長、橋本真優書記の3人から本校の概要などを発表しました。最後に、農大生が生産した農畜産物を市長に贈呈しました。

中根市長は、「本校との連携により地域農業の振興や担い手育成がお互いに図られるとともに、学生の皆さんの学生らしい柔軟な発想が岡崎市の中で活か



協定書の交換

されていくことを期待します」とあいさつされました。



中根市長へ学生会役員(当時)から農畜産物の贈呈

学生会役員(当時)から農大概要や連携について発表

中根市長と堤校長(当時)による協定書署名

令和3年度卒業式

令和4年3月7日(月)に挙
行し、教育部農学科101名が
本校を巣立って行きました。

新型コロナウイルス感染症対
策のため、昨年に引き続き、時
間短縮、来賓の縮小、換気、マ
スクの着用などの対策を行い式
典を実施しました。また、式場
への入場を御遠慮いただいた保
護者に向けて、YouTube
によるライブ配信を行いました。
卒業生は専攻実習や農家派遣
実習、プロジェクト活動、体育
祭、農大祭、学生寮での生活な
ど、2年間の農大での生活の
様々な思い出を胸に卒業式に臨
んでいました。

は、卒業
生全員の
名前を呼
び、堤
校長から
総代の橋
本真優さ
んに、卒
業証書が
授与さ
れ、その
後、優秀
者等17名
に県知事
賞などの
表彰を行
いました。
式辞に続
いて、柴



卒業式の様子

田同窓会長から御祝辞をいた
だきました。
卒業生には、本校で学んだ知
識、技能、経験を活かし、新た
な環境で活躍することを祈念い
たします。

表彰状受賞者

優秀賞

【愛知県知事賞】

橋本 真優 教育部農学科

【大学校長賞】

河合あいら 教育部農学科

永井 さえ 教育部農学科

竹内 規人 教育部農学科

吉村 颯季 教育部農学科

精励賞

【大学校長賞】

大久保竣平 教育部農学科

太田 隼也 教育部農学科

清水 陽大 教育部農学科

前田 一樹 教育部農学科

果樹専攻

Table listing staff members of the Agricultural University of Japan, including roles like President, Vice President, and various department heads.

Table listing staff members of the Agricultural University of Japan, including various faculty positions and their names.

Table listing staff members of the Agricultural University of Japan, including various faculty positions and their names.

令和3年度 会計決算報告

1 令和3年度 一般会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
2,991,601	1,930,651	1,060,950	自令和3.1.1 至令和3.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
会費	1,800,000	1,780,000	△20,000	農学科89名 (@20,000円)
雑収入	13	17	4	預金利息 3.2.21 6円 3.8.22 11円
繰越金	1,198,584	1,198,584	0	
戻入	0	3,000	3,000	理事会欠席者分戻入
寄付金	0	10,000	10,000	匿名での寄付
計	2,998,597	2,991,601	△6,996	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
全国連盟会費	72,380	65,270	7,110	会員割20,000円 学生1名500円×89名 振込手数料770円
支部活動費	10,000	0	10,000	
技術部会活動費	21,320	0	21,320	
旅費	90,000	0	90,000	東海近畿ブロック会議中止 全国連盟総会書面開催
事務用品費	40,000	544	39,456	事務用切手代
会報発行費	760,000	777,693	△17,693	同窓会報第37号 印刷・発送
会議費	120,000	80,898	39,102	役員会1回 3.1.15 理事会1回 3.2.5開催費 (旅費、昼食代、謝礼等)
賃金	11,000	0	11,000	
記念品費	243,000	144,480	98,520	卒業生記念品 (印鑑、図書カード) 3.3.5
表彰費	70,000	0	70,000	
個人情報業務委託費	132,880	132,880	0	会員データ年間管理料132,000円 振込手数料 880円
交際費	10,000	1,364	8,636	慶弔電報代
繰出金	400,000	400,000	0	名簿作成基金 200,000円 創立記念基金 200,000円
予備費	1,018,017	327,522	690,495	大判プリンタ等購入費
計	2,998,597	1,930,651	1,067,946	

2 令和3年度 名簿作成基金会計収支決算

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
1,656,151	0	1,656,151	自令和3.1.1 至令和3.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から
預金利息	10	12	2	3.2.20 6円 3.8.21 6円
名簿収入	3,000	3,000	0	3.10.4 1冊
繰越金	1,453,139	1,453,139	0	前年度より繰越
計	1,656,149	1,656,151	2	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	1,656,149	0	1,656,149	
計	1,656,149	0	1,656,149	

3 令和3年度 創立記念基金会計収支決算

(1)普通預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
2,879,827	0	2,879,827	自令和3.1.1 至令和3.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰入金	200,000	200,000	0	一般会計から
預金利息	20	24	4	3.2.20 12円 3.8.21 12円
繰越金	2,679,803	2,679,803	0	前年度より繰越
計	2,879,823	2,879,827	4	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	2,879,823	0	2,879,823	
計	2,879,823	0	2,879,823	

(2)定期預金

(単位 円)

収入総額	支出総額	差引残額	備考
500,668	0	500,668	自令和3.1.1 至令和3.12.31

(次年度へ繰越)

収入の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	比較増減額	備考
預金利息	50	43	△7	3.2.5 43円
繰越金	500,625	500,625	0	前年度より繰越
計	500,675	500,668	△7	

支出の部

(単位 円)

費目	予算額	決算額	差引残額	備考
予備費	500,675	0	500,675	
計	500,675	0	500,675	

令和4年度 会計予算

1 令和4年度 一般会計収支予算 収入の部

(単位 円)

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 会費, 雑収入, 繰越金, 計.

支出の部

(単位 円)

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 全国連盟会費, 支部活動費, 技術部会活動費, 旅費, 事務用品費, 会報発行費, 会議費, 賃金, 記念品費, 表彰費, 個人情報業務委託費, 交際費, 繰出金, 予備費, 計.

2 令和4年度 名簿作成基金会計収支予算 収入の部

(単位 円)

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 繰入金, 預金利息, 名簿収入, 繰越金, 計.

支出の部

(単位 円)

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 予備費, 計.

3 令和4年度 創立記念基金会計収支予算

(1)普通預金 収入の部

(単位 円)

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 繰入金, 預金利息, 繰越金, 計.

支出の部

(単位 円)

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 予備費, 計.

(2)定期預金 収入の部

(単位 円)

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 預金利息, 繰越金, 計.

支出の部

(単位 円)

Table with 5 columns: 費目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 予備費, 計.

事務局から

毎年「同窓会報」を発行するに当たり、住所不明等で多数の会員に会報が届いていません。会員の皆様で、住所や姓が変わるなど状況に変化があった場合、その状況を事務局までお知らせください。

また、同窓会報の内容は農大ホームページの中の同窓会のページで見ることができます。

会員様の中でホームページを見るから同窓会報の送付を経費節約のために止めていただいても結構と言われる方がおみえになりましたら、送付不要を希望される場合のみ、官製はがきにその旨を書き、住所氏名を記入し、10月31日までに農大事務局にご送付ください。その方のみ次号から送付を止めさせていただきます。

愛知県立農業大学校 同窓会事務局 同窓会長 柴田 隆夫

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1の2 電話 (0564) 51-1602 F A X (0564) 51-4831

会員データについて

愛知県立農業大学校同窓会は株式会社廣済堂ネクストへ会誌の発送業務を委託いたします。その際、お預かりする個人情報等は個人情報保護法に準拠する日本の法令その他の規範を厳守し、左記目的の範囲のみ利用いたします。 ● 株式会社廣済堂ネクストの個人情報取扱について ● いただいた個人情報は、以下の目的で使用いたします。 ● 学校ならびに同窓会からの通信文書および名簿の発送 ● 同窓会が本来目的により活動する場合、必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合 (同窓会会則に準じます) ● ご提供いただいた個人情報は、本人の承諾なしに学校・同窓会関係者以外の第三者に開示することはありません。 ● 個人情報保護法に基づき、本人に開示、訂正、削除を求めることができます。